

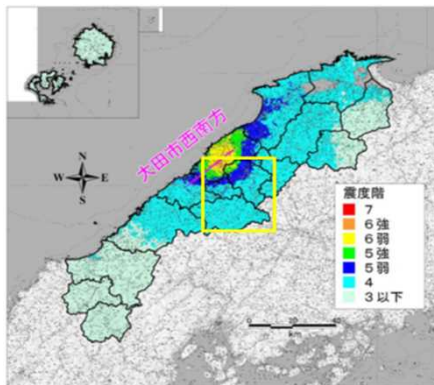
# 平成29年度 大規模災害時における災害廃棄物処理計画策定モデル業務(中国地方: 邑智郡)

## モデル事業の対象

モデル地域の構成:  
 (島根県)川本町、美郷町、邑南町、  
 邑智郡総合事務組合

モデル地域の特性:  
 島根県の中央部に3町で構成され、  
 広島県に源流を持つ江の川が急峻な  
 山々を縫うように流れており、9割近くが  
 山林を占める中山間から山間部に位置  
 している。

対象とする災害:  
 大田市西南方の地震



大田市西南方の地震動分布

## 災害廃棄物処理計画作成モデルの検討

### 災害廃棄物の発生場所、発生量の予測・推計

「大田市西南方の地震」発生時に生じる災害廃棄物の量と内訳についての推計結果を表に示す。台風や大雨による局所的な災害については、市町のハザードマップ等において発生予測場所を確認するとともに、近年の集中豪雨等による災害は地域全域発生する可能性があるという認識も必要である。

災害廃棄物発生量推計値

町	災害廃棄物発生量
川本町	817 t
美郷町	1,298 t
邑南町	0 t
(合計)	2,115 t

災害時処理困難物:  
 農業由来の農薬類、農機  
 具、飼肥料や農作物等の腐  
 敗性廃棄物等

種類別発生量推計値

柱角材 (5.4%)	可燃物 (18%)	コンから (52%)	金属類 (6.6%)	不燃物 (18%)
114 t	381 t	1,100 t	140 t	381 t

## 適正な利活用の検討

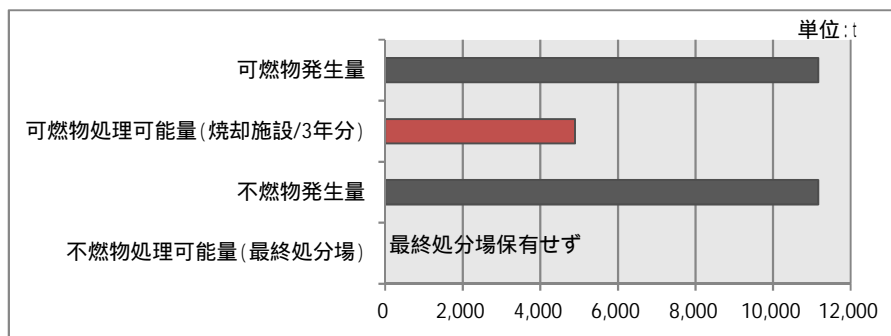
邑智郡の一般廃棄物処理は、邑智郡総合事務組合(邑智クリーンセンター)で行っており、災害廃棄物処理可能量(可燃物)は最大451t/年(280日稼働)である。可燃物の発生推計量(381t)を処理する場合、処理開始から1年以内で自区内処理できる計算となる。施設の老朽化に伴う処理能力の低下等を考慮する必要もあるが、2022年から隣接する大田市の可燃ごみを併せて受入れる40t/日の焼却施設が稼働予定であり、耐震基準適合、非常用発電機の設置等により、既存施設より災害対応力の高い施設となる。



邑智クリーンセンター

邑智郡の焼却施設と処理余力

処理能力	処理実績(H28)	炉の形式	稼働開始年月
12 t/日	2,909 t	ストーカ式	平成10年4月
低位シナリオ (5%)	中位シナリオ (10%)	高位シナリオ (20%)	最大利用方式 (280日稼働)
処理能力に より除外	処理能力に より除外	処理能力に より除外	451 t



芸北地域における災害廃棄物発生量と処理余力(最大利用)の比較

## 仮置場の検討

仮置場必要面積:最低限約2,000㎡

この地域では、河川沿いの狭小な土地から仮置場候補地を選定しなければならず、面積以外にも運営面における適性の考慮が必要となる。

災害廃棄物対策指針に示す方法に基づく計算では、仮置場の必要面積は約540㎡となるが、これは仮置場で廃棄物を高さ5mまで積み上げることを前提とした試算結果であり、当地域で予測される災害廃棄物の発生状況とは整合しない。大型車両の出入りや荷おろし作業スペース、分別区画の設定を考慮した場合、最低限2,000㎡程度の広さの確保は必要であると考えられる。



仮置場候補地の検討条件の例



仮置場検討対象地の現地調査(最終処分場跡地)

## 最終処分場の検討

現在稼働している邑智クリーンセンター最終処分場は処理余力がない(残余年数5年)ことから、分別・選別の徹底によりリサイクルの促進を図りつつ、県との調整のもと、広域的な処理、民間事業者(廃棄物処理事業者等)への処理委託等について検討する必要がある。将来的には、新焼却施設の建設に伴って、既存施設の嵩上げにより最終処分場の処理余力を増やし、災害時にも対応できるように計画している。

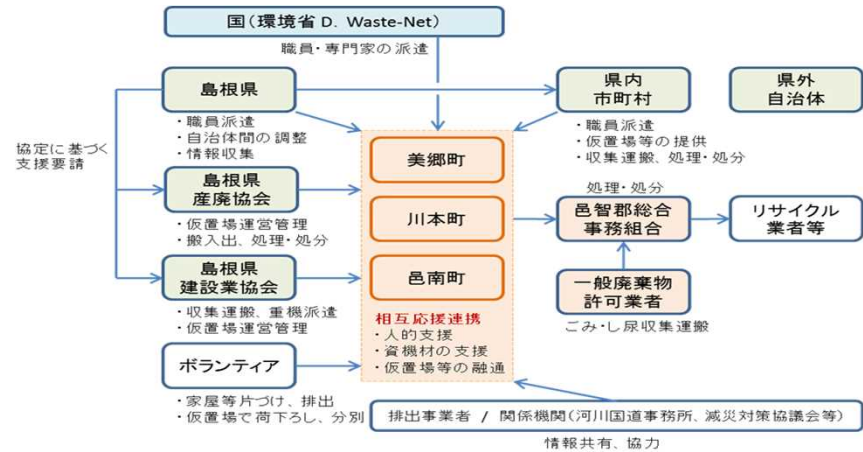


邑智クリーンセンター最終処分場

## 災害廃棄物処理体制の検討と地域計画策定の課題

### 災害廃棄物処理体制の検討

被災市町からの要請によって、県は各業界団体への支援依頼や、必要に応じて県内の市町等に対して支援のための調整を行う。また、業者等との契約は被災市町と直接結ぶものであり、平時から協定等の中で協議をしておくことが望ましい。



邑智郡における災害廃棄物処理体制構築のイメージ

### 地域における災害廃棄物処理計画策定の検討課題

邑智郡は中山間地域であり、過疎と高齢化が進んだ地域となっている。災害廃棄物処理計画策定にあたり、地域特性を考慮した処理体制や地域内連携の必要を認識することが重要となる。

地域における課題とその解決策の検討例

	具体的な課題の例	課題解決策の検討
地域特性に関する課題	過疎・高齢化が進んだ地域での災害廃棄物の排出・集積	・住民の互助による排出・分別 ・暫定置場の設置
	被災による通常の収集運搬ルート寸断等	トラブルをあらかじめ想定した迂回ルートの検討
処理体制に関する課題	処理施設の老朽化・災害対応力の不足	・施設の補修・補完 ・災害廃棄物処理にあたる担当組織の人員確保